

干潟調査のレポート⑥

主催団体名	調査地点・海域	調査時期
NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会	葛西海浜公園西なぎさ	8月25日

干潟調査（貝類調査）の結果

団体名	NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会
調査地点名	葛西海浜公園西なぎさ
実施年月日	令和4年8月25日
参加人数（人）	6人

発見した生物の種名※	特記事項など
ソトオリガイ	計9個
アサリ	計34個
マテガイ	計3個
シオフキ	計3個
シジミ	計5個
ハマグリ	計2個
ホンビノス	計1個
ホトトギス	計1個

令和4年度 葛西海浜公園西なぎさ 二枚貝生息調査報告

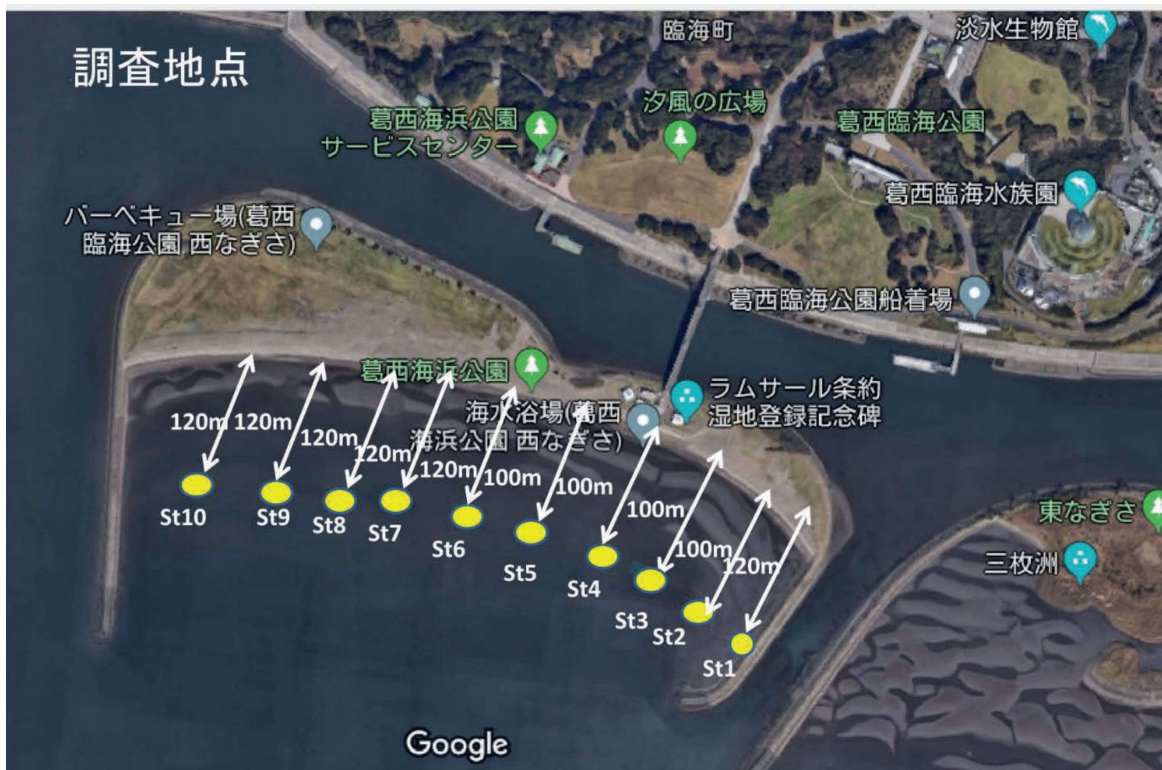
NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会



〒134-0083 東京都江戸川区中葛西6-7-12 ビックバン株式会社内
TEL03-3867-1992/FAX03-3688-5955/E-mail yuzo@sekiguchi-sekkei.co.jp

調査の目的

- ・二枚貝は、水質浄化の機能を持っており、
- ・さらに、冬場、2万羽程度飛来するスズガモの餌となっているほか、
- ・海浜公園を訪れた人々が、潮干狩りを楽しむ対象ともなっているため、
- ・西なぎさに豊富な二枚貝が存在するようにしていく必要があります。
- ・しかしながら、最近では、その数が激減しているように感じられるため、
- ・この度、当会が独自に調査を行ったので、ここに報告いたします。



調査結果 合計69g 58個

		St1	St2	St3	St4	St5	St6	St7	St8	St9	St10	計
ソトオリガイ	重量(g)	4	0	0	0	2	0	15	7	0	0	29
	個数	2	0	0	0	1	0	4	2	0	0	9
アサリ	重量(g)	0	0	—	0	—	0	3	5	2	4	16
	個数	0	0	3	0	3	0	10	4	6	8	34
マテガイ	重量(g)	0	0	0	0	0	0	0	—	10	—	11
	個数	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
シオフキ	重量(g)	0	0	0	4	0	0	1	0	0	2	8
	個数	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	3
シジミ	重量(g)	2	0	—	0	0	0	0	0	1	0	3
	個数	3	0	1	0	0	0	0	0	1	0	5
ハマグリ	重量(g)	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	1
	個数	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
ホンビノス	重量(g)	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—
	個数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
ホトトギス	重量(g)	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—
	個数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
重量計	重量(g)	5	0	—	4	5	0	21	13	15	6	69
個数計	個数	5	0	4	1	5	0	16	7	10	10	58

葛西海浜公園西なぎさの水域は
約23ha

今回の調査では、69g/2.5 m²
1m²あたりでは、27.6gの二枚貝が
生息すると仮定すると、

$$230,000 \text{ m}^2 \times 0.0276 \text{ kg/m}^2 = 6,348 \text{ kg} \\ \doteq 6.3 \text{ t}$$

※20,000羽のスズガモが食べる貝は、20t/日
⇒飛来して、7.5時間で食べつくされる量

経年変化

単位g

	2020/8/17 調査面積1m ²	2021/8/21 調査面積2.25m ²	2022/8/25 調査面積2.5m ²
ソトオリガイ	2	10	29
アサリ	—	30	16
マテガイ	0	0	11
シオフキ	—	2	8
シジミ	0	30	3
ハマグリ	0	9	1
ホトトギス	0	0	—
重量計	3	93	69
重量計/m ²	3	41.3	27.6

干潟調査のレポート⑦

主催団体名	調査地点・海域	調査時期
江戸川区子ども未来館	葛西海浜公園 西なぎさ	8月27日 9月23日

調査情報	
団体名	江戸川区子ども未来館
調査地点名	葛西海浜公園 西なぎさ
位置座標 (可能であれば) ※スマートフォン・タブレット端末 等の地図アプリで取得してくださ い。	緯度
	経度
実施年月日	2022年8月27日
参加人数(人)	37人

調査結果		
種類名	発見数(匹)	代表的な発見場所
チチュウカイミドリガニ		
マメコブシガニ		
ケフサイソガニ		
タカノケフサイソガニ	10	干潟 タイドプール
ハマガニ		
アシハラガニ		
アカテガニ		
クロベンケイガニ	3	草地 石ころ
クシテガニ		
ウモレベンケイガニ		
イシガニ		
コメツキガニ	1	砂地
チゴガニ		
オサガニ	1	砂泥質の干潟
ヤマトオサガニ	8	砂泥質の干潟
種類不明のカニ		
カクベンケイガニ	10	石ころ 岩場
ガザミ	3	砂地 泥地 タイドプール

干潟調査の結果

団体名	江戸川区子ども未来館	
調査地点名	葛西海浜公園 西なぎさ	
位置座標 (可能であれば)	緯度	
	経度	
実施年月日	2022年8月27日	
参加人数(人)	37人	

発見した生物の種名※	特記事項など
シモフリシマハゼ	
チチブ	
マハゼ	
ミミズハゼ	
ヒモハゼ	
アシシロハゼ	
ボラ	
コチ	
ワニゴチ	
ギマ	幼魚3匹捕獲
コショウダイ	幼魚
イダテンギンボ	
ヤマトシジミ	
ソトオリガイ	
オキシジミ	
マガキ	
マテガイ	
シオフキガイ	
カワヒバリガイ	
コウエンカサヒバリガイ	
ウネナシトマヤガイ	
タマキビ	
アサリ	

アカニシ (卵塊)	
ガザミ	
ユビナガスジエビ	
シラタエビ	
テナガエビ	
ニホンスナモグリ	
イソテッポウエビ	
ウリタエビジャコ	
ユビナガホンヤドカリ	
アナジャコ	

干潟調査の結果

団体名	江戸川区子ども未来館	
調査地点名	葛西海浜公園 西なぎさ	
位置座標 (可能であれば)	緯度	35.638096
	経度	139.857298
実施年月日	2022年9月23日	
参加人数(人)	24人	

発見した生物の種名※	特記事項など
エドハゼ	
チクゼンハゼ	
マメコブシガニ	
オサガニ	
ヤマトオサガニ	
タカノケフサイガニ	
カクベンケイガニ	
アナジャコ	
ニホンスナモグリ	
ウリタエビジャコ	
イソコツブムシ類	
シラタエビ	
ユビナガスジエビ	
トビイデッコウエビ類	
ハマグリ	
オキシジミ	
イソシジミ	
ヤマトシジミ	
シオフキ	
アカニシ	
アラムシロガイ	
ミズクラゲ	
マガキ	
ホトトギスガイ	
	以下、陸生

ヒシバツタ類	
チョウセンカマキリ	
オンブバツタ	
オカメコオロギ類	
クルマバツタモドキ	
マダラバツタ	
ショウリョウバツタ	
ショウリョウバツタモドキ	
トノサマバツタ	
シバズ	
ホシササキリ	
アキアカネ	
エンマコオロギ	
セスジスズメ	
キタキチョウ	
アオメアブ	
ユビナガホンヤドカリ	
コメツキガニ	
オオハサミムシ	

9-2 その他の調査

(1) 調査参加機関

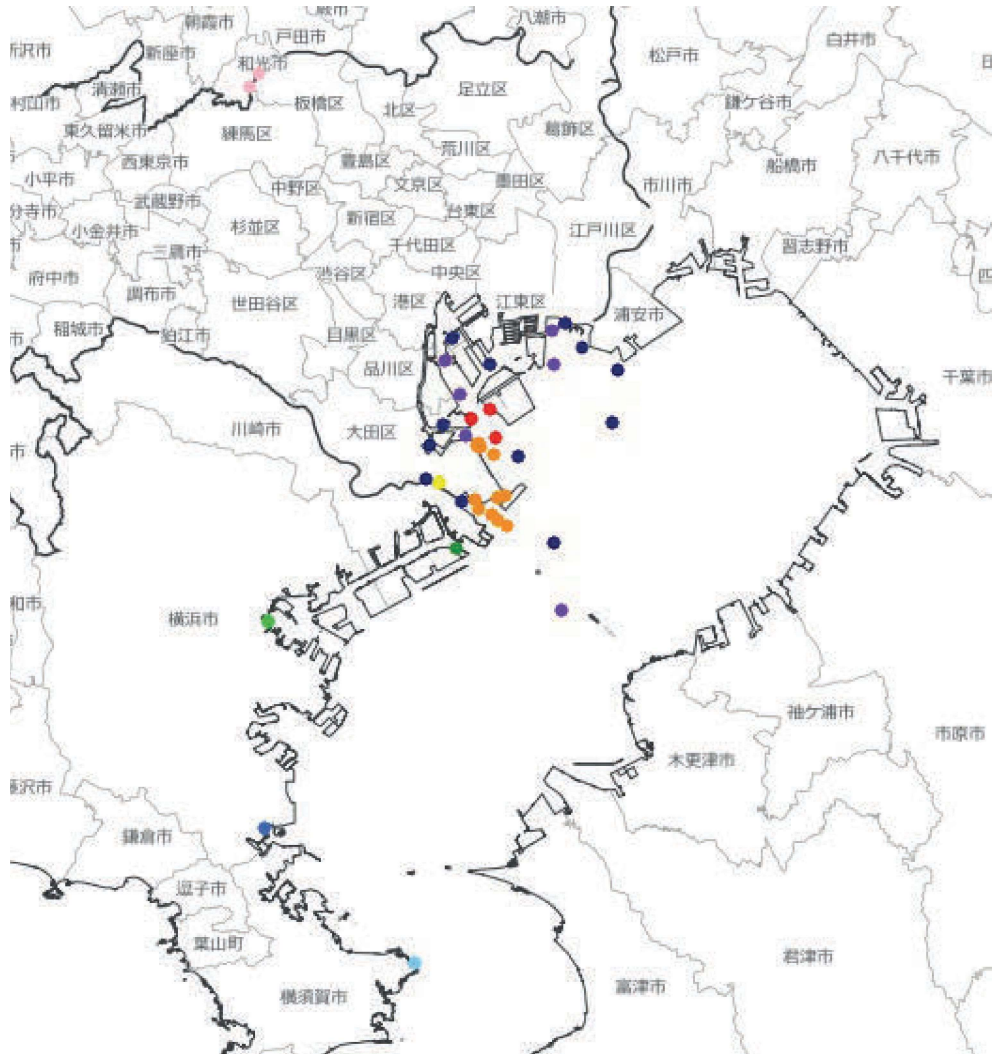
令和4年度は、11団体から干潟以外の調査について報告がありました(表9-4)。

表9-4 その他の調査の実施実績(実施日順)

報告書番号	実施・主催機関	調査場所・地点名	実施日	調査内容
①	東京湾再生官民連携フォーラム モニタリング推進PT	東京湾全域	7月1日～ 9月30日	マハゼ
②	東京都環境局自然環境部水環境課	東京湾内	7月20日 8月3日 8月4日 8月17日	動植物プランク トン
③	川崎市環境総合研究所 (日本海洋生物研究所協力)	東扇島東公園人工海 浜「かわさきの浜」	7月21日 8月15日 9月9日	底生生物等
④	板橋区	白子川(東埼橋、 白藤橋)	7月28日	魚類、底生動物
⑤	国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所	東京湾内	①8月3日 ②8月1 日、2日、 8日、10日	①海底に生息す る底生生物 ②浅場に生息す る水生生物
⑥	国土交通省 関東地方整備局	臨港パーク	8月5日	浅場(砂地)及 び石積、護岸の 水生生物
⑦	合同会社オフショアテクノロジーズ	神奈川県立観音崎公 園 海岸園地前の磯	8月11日	潮間帯に生息す る水生生物
⑧	(株)日本海洋生物研究所	多摩川河口域	8月12日	コアマモ
⑨	国土交通省 関東地方整備局 東京港湾事務所	東京湾内	8月23日 8月26日	底生生物、付着 生物、動植物プ ラントン
⑩	東京都環境局自然環境部水環境課	東京湾内	①8月24日 ②9月7日 ③9月16日 ④9月26日	①底生生物 ②稚魚 ③成魚 ④鳥類
⑪	株式会社横浜八景島	横浜市海の公園	8月29日	水生生物

(2) 調査実施地点

調査は、図9-4に示す地点で実施されました。



出典：海洋状況表示システム(<https://www.msil.go.jp>)、国土地理院 (GSI)

- 東京都環境局自然環境部水環境課 (東京湾内) (報告書番号②)
- 川崎市総合研究所 (日本海洋生物研究所協力) (東扇島東公園人工海浜「かわさきの浜」) (報告書番号③)
- 板橋区 白子川 (東埼玉橋、白藤橋) (報告書番号④)
- 国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所 (東京湾内) (報告書番号⑤)
- 国土交通省 関東地方整備局 (臨港パーク) (報告書番号⑥)
- 合同会社オフショアテクノロジーズ (神奈川県立観音崎公園 海岸園地前の磯) (報告書番号⑦)
- (株)日本海洋生物研究所 (多摩川河口域) (報告書番号⑧)
- 国土交通省 関東地方整備局 東京港湾事務所 (東京湾内) (報告書番号⑨)
- 東京都環境局自然環境部水環境課 (東京湾内) (報告書番号⑩)
- 株式会社横浜八景島 (横浜・八景島シーパラダイス) (横浜市海の公園) (報告書番号⑪)

※東京湾再生官民連携フォーラム モニタリング推進PTは東京湾全域で調査を行った。

図9-4 その他の調査の実施地点

(3) 各調査のレポート

各調査のレポートを紹介します。

生物調査（干潟以外）のレポート①

実施・主催機関	調査場所・地点名	実施日	調査内容
東京湾再生官民連携 フォーラム モニタリング推進PT	東京湾全域	7月1日～9月30日	マハゼ

生物調査の結果

団体名	東京湾再生官民連携フォーラム モニタリング推進PT		
調査地点名	東京湾全域		
位置座標	緯度		
	経度		
実施年月日	令和4年7月1日～9月30日		

【対象生物】

マハゼ

【調査概要】

江戸前ハゼ復活プロジェクトとして、東京湾再生官民連携フォーラム モニタリング推進PT、東京水産振興会、海辺づくり研究会、国土技術政策総合研究所検眼海洋・防災研究部海洋環境研究室が協働し、マハゼの棲み処調査を例年7月～12月に実施している。本報告時には調査が終了していないので、7月～9月の上期における速報を報告する。

主な調査場所としては、神奈川県：平潟湾、金沢文庫、野島公園、富岡船溜り公園、横浜港、高島水際線公園、東神奈川など、東京都：多摩川河口・中流、海老取川、羽田周辺、京浜運河（新芝運河・大井ふ頭中央海浜公園）、京浜島つばさ公園、墨田川、東京港（朝潮運河・お台場海浜公園・佃掘）、東京内港（小名木川・横十間川・仙台堀川）、荒川河口・中流など、千葉県：中川、旧中川、江戸川河口・中流、旧江戸川、江戸川放水路、三番瀬・浦安・境川、行徳、花見川、船橋、千葉港、市原、袖ヶ浦、木更津港、富津市、外房（一宮川）、松戸市などから合計 9372 匹の全長情報が寄せられた。

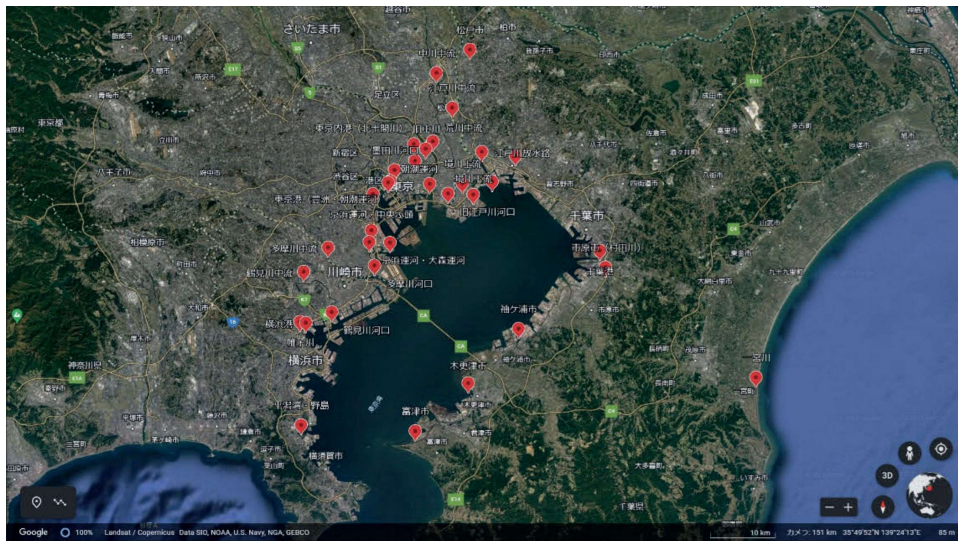


図1 調査地点概略図（場所は正確な調査地点ではない）

表1 収集データ数（2022年上期）

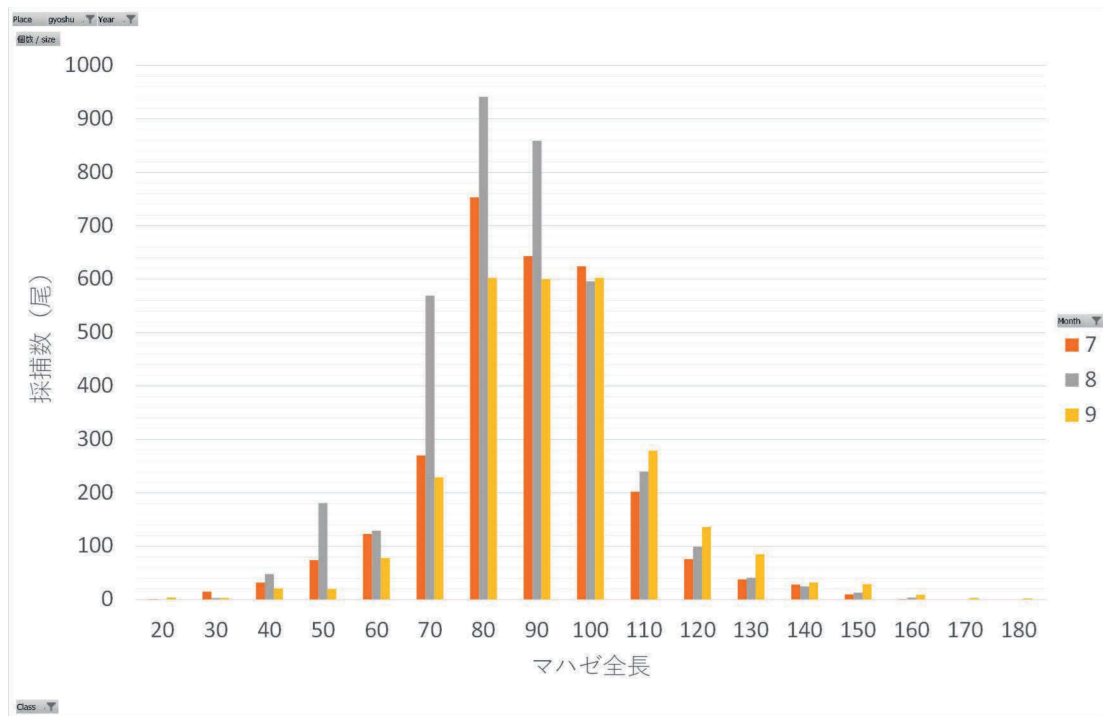
計測月	7月	8月	9月
2022年	2890	3748	2734

【結果概要】

今年のハゼ釣りはシーズン初め、4-5 cmの小型の当歳魚（デキハゼ）、8 cmの中型のハゼ、12 cmの大型のハゼが混在する状況でスタートしたが、7月を平均すると、8-9 cm程度の前年秋生まれとみられる系群が卓越していた。昨年に比べるとやや小型という印象がある。8月に入ると、5 cm程度の新たな系群の加入は昨年同様の傾向である。9月に入ると7月に8 cmであったハゼが9-10 cm程度に成長していること、16 cmを超える大型のハゼもつれ始めてきた。この大型ハゼは、昨年初夏（6月）生まれ群として、昨年にも観測されていた群で、その動向が注目される。

【調査体制】

昨年より、東京水産振興会により「江戸前ハゼ復活プロジェクト」のWeb サイトが運営され、その中でオンラインでのデータ登録も実施してきている (<https://mahaze.suisan-shinkou.or.jp/>)。



2022年マハゼの棲み処調査速報値（7-9月の調査データより）

生物調査（干潟以外）のレポート②

実施・主催機関	調査場所・地点名	実施日	調査内容
東京都環境局自然環境部水環境課	東京湾内	7月20日、8月3日、8月4日、8月17日	動植物プランクトン

プランクトン調査結果

東京都環境局自然環境部水環境課

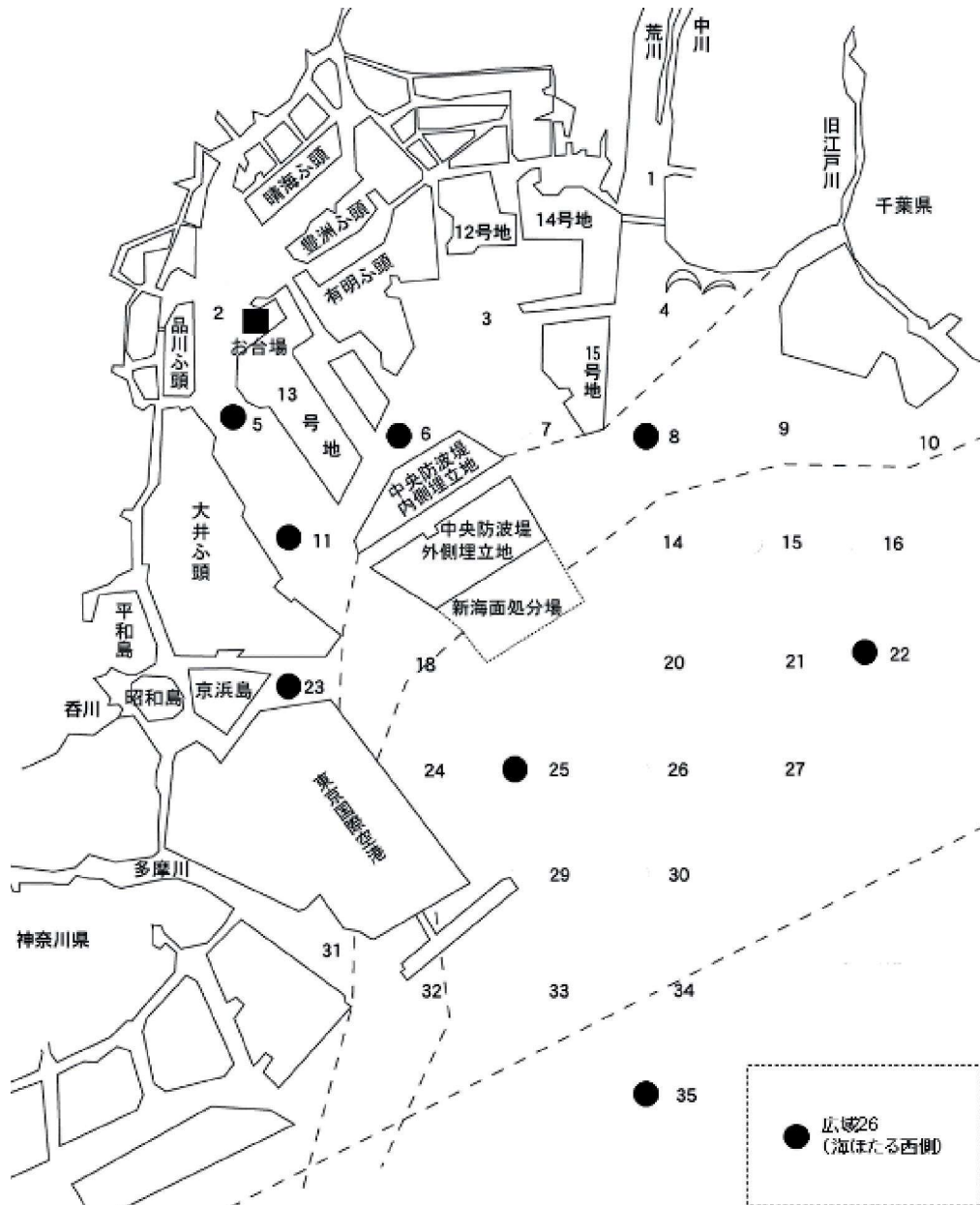
東京都環境局では、水質汚濁防止法第16条の測定計画に基づく毎月の水質測定調査時に動植物プランクトン上位10種の同定・計数を行っているほか、夏季期間中に延べ17日間の赤潮調査（上位5種）を実施し、概ね毎週、赤潮発現の推移を見ている。

令和4年8月に実施した水質測定調査と7月20日の赤潮調査で確認されたプランクトン種を報告する。

【調査実施日・地点】

①内湾水質測定調査：8月3, 4, 17日 計9地点 (St.5, 6, 8, 11, 22, 23, 25, 35, 広域26)

②赤潮調査：7月20日 計8地点 (お台場, St.6, 8, 11, 22, 23, 25, 35)



【①水質測定調査】

8月3日 (St. 23, 25, 35, 広域 26) : 前5日間は降雨がなく、当日の天候は曇時々晴れ。

8月4日 (St. 5, 11) : 調査を開始したが雷雨により中断し、未調査地点を17日に延期した。

8月17日 (St. 6, 8, 22) : 前3日間は降雨がなかったが、当日は5 mmの降雨があった。

調査した9地点のうち、6地点 (St. 5, St. 6, St. 11, St. 22, St. 23, St. 25) で赤潮が見られ、St. 8 と St. 22 を除く7地点では底層の溶存酸素量が2.0mg/L以下の貧酸素状態であった。

各地点の動植物プランクトン上位10種と細胞数は表1のとおり。

Cryptomonadaceae や *Thalassiosira binata* が細胞数での優占種となり、そのほか *Skeletonema costatum* や *Heterocapsa* sp. などが多く観察された。

また、動物プランクトンでは Oligotrichida や *Tintinnopsis* sp. などが見られた。

観察された主な種の顕微鏡下写真

植物プランクトン



Thalassiosira binata



Cyllindrotheca closterium

動物プランクトン



Tintinnopsis corniger



Favella ehrenbergii

表1 8月の水質測定調査におけるプランクトン定量結果

調査地点	St.5	St.6	St.8	St.11	St.22	St.23	St.25	St.35	広26
採集年月日	8月4日	8月17日	8月17日	8月4日	8月17日	8月3日	8月3日	8月3日	8月3日
植物プランクトン									
種名	細胞数 (単位: $\times 10^6$ 細胞/ m^3)								
Cryptomonadaceae	20,500	21,500	12,600	6,260	15,000	6,910	5,780	918	5,060
<i>Gyrodinium</i> sp.								76	118
Gymnodiniales		408	232		312			144	360
<i>Heterocapsa</i> sp.	936	2,050	1,630	357	1,370	612	250		84
<i>Protoperdinium bipes</i>								45	
Peridiniales		114						46	
<i>Skeletonema costatum</i>	3,500	2,170	1,490	1,020	1,510	1,390	1,060		
<i>Thalassiosira binata</i>	16,700		762	24,000	1,750	21,600	9,790		423
Thalassiosiraceae	1,320	1,000	126	147		1,370	492		
<i>Rhizosolenia fragilissima</i>			145		333				
<i>Cerataulina pelagica</i>								206	306
<i>Neodelphineis pelagica</i>					230				
<i>Navicula</i> sp.	216			190		294	270		232
<i>Cylindrotheca closterium</i>	202	250	149	880	280	399	2,660	648	3,020
<i>Heterosigma akashiwo</i>					166				
Euglenophyceae	300	672		436		508	336	100	228
Prasinophyceae	856	984	111	460		1,200	309	65	
other Micro-flagellates	2,040	2,120	750	1,320	1,250	660	690	484	464
others	254	584	685	346	878	245	941	234	568
動物プランクトン									
種名	個体数 (単位: $\times 10^6$ 個体/ m^3)								
<i>Mesodinium rubrum</i>					1.10	1.00	1.00	0.30	0.20
<i>Tintinnidium mucicola</i>			0.07						
<i>Codonella</i> sp.		1.55	0.81	0.95			1.05		
<i>Tintinnopsis aperta</i>	0.32	0.42		0.60		0.04			
<i>Tintinnopsis corniger</i>		0.19							
<i>Tintinnopsis directa</i>	0.38	1.60	0.46	0.07	2.30		3.60	0.02	
<i>Tintinnopsis</i> sp.	0.17	7.60	2.30	2.70	4.20		1.15	0.04	
<i>Helicostomella fusiformis</i>			0.42		4.80	0.06			
<i>Favella ehrenbergii</i>		0.04			1.05	0.10			
<i>Eutimnus lusus-undae</i>						0.15			
<i>Eutimnus tubulosus</i>					1.00			0.05	0.04
<i>Amphorellopsis acuta</i>								0.12	0.09
Oligotrichida	9.00	7.00	1.10	14.00	3.35	4.00	9.00	0.55	0.60
Ciliata			0.05		0.90	1.30			
<i>Brachionus plicatilis</i>	1.40			1.40	0.80	0.45	0.05		
<i>Trichocerca marina</i>	0.04	0.07		0.06					
<i>Synchaeta</i> sp.								0.05	
Veliger larva of Bivalvia	0.20			0.05			0.42		
Polychaeta larva							0.16		0.01
<i>Penilia avirostris</i>									0.01
<i>Evadne tergestina</i>									0.01
<i>Oithona davisae</i>	0.02		0.06					0.01	0.06
Copepodite larva of <i>Oithona</i>	0.06	0.03	0.13	0.11		0.01	0.06	0.21	0.92
Nauplius larva of Copepoda	6.00	0.70	0.75	0.70	1.10	0.05	0.55	1.60	3.60

【②赤潮調査 (7月20日)】

前2日間と当日は降雨がなく、最高気温が30℃を超える日が続いた。

調査した8地点すべてで赤潮が確認され、St. 8とSt. 23を除く6地点では底層の溶存酸素量が2.0mg/L未満の貧酸素状態であった。

東京都では、1回の赤潮調査につき数地点で表層水を採水し、動植物プランクトン優占5種の定量を実施している。7月20日はお台場、St. 6、St. 25の3地点について定量を行った。

結果は表2のとおり、細胞数では *Thalassiosira* spp. が優占種となり、次いで *Thalassiosiraceae* や *Skeletonema costatum*、Cryptomonadaceae が多く見られた。また、動物プランクトンでは *Mesodinium rubrum*、Oligotrichida などが見られた。

表2 7/20 赤潮調査におけるプランクトン定量結果

調査地点	お台場	St.6	St.25
採取年月日	7/20	7/20	7/20
植物プランクトン			
種名	細胞数(単位:×10 ⁶ 細胞数/m ³)		
Cryptomonadaceae	3,310	2,160	3,310
<i>Skeletonema costatum</i>	10,300	8,350	4,970
<i>Thalassiosira</i> spp.	37,700	35,000	25,500
Thalassiosiraceae	36,500	13,400	3,120
<i>Chaetoceros</i> sp.		1,870	1,800
Prasinophyceae	1,730		
other phytoplankton	4,610	4,250	6,190
動物プランクトン			
種名	個体数(単位:×10 ⁶ 個体数/m ³)		
<i>Didinium</i> sp.	2.53	1.26	
<i>Mesodinium rubrum</i>	14.8		
<i>Amphorella quadrilineata</i>		2.53	2.63
<i>Eutintinnus</i> sp.		5.05	2.89
Oligotrichida	8.84	16.4	0.53
Ciliata	0.95		
<i>Trichocerca marina</i>			0.79
Nauplius of Copepoda	0.71	1.58	1.58
other zooplankton	1.11	1.42	1.58

観察された主な種の顕微鏡下写真



Thalassiosira spp.



Skeletonema costatum.

生物調査（干潟以外）のレポート③

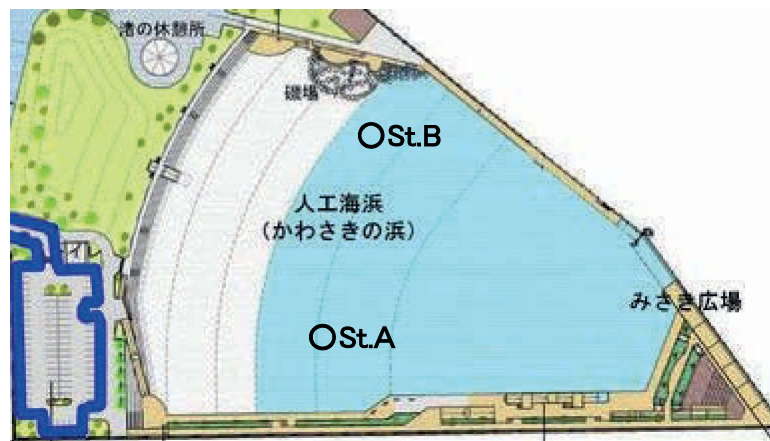
実施・主催機関	調査場所・地点名	実施日	調査内容
川崎市環境総合研究所（日本海洋生物研究所協力）	東扇島東公園人工海浜「かわさきの浜」	7月21日	底生生物等
		8月15日	
		9月9日	

生物調査の結果

団体名	川崎市環境総合研究所（日本海洋生物研究所協力）		
調査地点名	東扇島東公園人工海浜「かわさきの浜」 神奈川県川崎市川崎区東扇島 58-1		
位置座標 （可能であれば）	緯度	N 35° 30' 15.7"	
	経度	E 139° 46' 31.8"	
実施年月日	令和4年7月21日、令和4年8月15日、令和4年9月9日		

1 調査概要

令和4年7月から9月の間に、川崎市東扇島東公園人工海浜「かわさきの浜」において、アマモ及び底生生物等の生育状況を確認する調査を行った。



調査場所 川崎市東扇島東公園人工海浜「かわさきの浜」

2 調査方法

(1) アマモ生育状況調査

徒歩、シュノーケリングまたはスクーバ潜水で、アマモの生育状況を記録し確認する。

(2) 定性観察調査

徒歩、シュノーケリングまたはスクーバ潜水で観察された生物を記録し確認する。

(3) 底生生物等調査

軟体動物等については目視で確認し、底生生物についてはグラブ型採泥器またはスコップによる定量採取（50cm四方のコドラート枠）で海底泥を採取し、1mmのふるいで選別したうえ

で試料とし、10%ホルマリンで固定した。採取した生物を記録し確認する。

3 調査結果

2の(1)及び(2)の結果を表1に、2の(3)の結果を表2に示す。

表1 アマモ生育状況調査及び定性観察調査 確認種一覧

番号	分類	門	綱	目	和名	調査日							
						7月21日	8月16日	9月9日					
1	海草・藻類	緑色植物	緑藻	アオサ	アオサ属	○	○	○					
2				ミル	ミル	○	○						
3	底生動物	刺胞動物	花虫	海鰍	ウミサボテン	○	○						
4				磯巾着	磯巾着目	○	○	○					
5				軟体動物	腹足	新腹足	レイシガイ		○	○	○		
6		イボニシ					○	○	○				
7		アカニシ					○	○	○				
8		アラムシロ					○	○	○				
9		アメフラシ	トゲアメフラシ					○	○				
10		裸鰓	クロシタナシウミウシ					○					
11		二枚貝	二枚貝				フネガイ	サルボウガイ		○			
12								ムラサキガイ		○	○	○	
13								ミドリイガイ		○	○	○	
14								コウロエンカワヒバリガイ		○	○	○	
15								マルスダレガイ	トリガイ	トリガイ		○	
16										ホンビノスガイ		○	○
17										カガミガイ		○	○
18										アサリ		○	○
19				節足動物	頭足	八腕形		マダコ			○		
20								軟甲	十脚	フタミノテッポウエビ		○	
21		ケブカヒメヨコバサミ					○			○			
22		キンセンガニ								○			
23		イシガニ					○			○			
24		タイワンガザミ								○			
25		スベスベオウギガニ								○			
26		イソガニ					○			○			
27		タカノケブサイソガニ					○			○			
28		ショウジンガニ								○			
29				コメツキガニ		○							
30	苔虫動物	裸喉	楯口	ホンダワラコケムシ		○	○						
31	棘皮動物	ヒトデ	ヒトデ	モミジガイ	トゲモミジガイ	○		○					
32				ヒメヒトデ	イトマキヒトデ			○					
33				ウニ	サンショウウニ			○					
34		ナマコ	マナマコ	マナマコ			○						
35		原索動物	ホヤ	ホヤ	マメボヤ	カタユウレイボヤ	○	○	○				
36					マボヤ	エボヤ	○	○	○				
37	シロボヤ					○	○	○					
						20	28	30					

表2 底生生物等 確認種一覧

番号	門	綱	目	和名	測点			St. B				
					調査日			調査日				
					7月21日	8月15日	9月9日	7月21日	8月15日	9月9日		
1	刺胞動物	花虫	磯巾着	磯巾着目		○	○					
2	扁形動物	渦虫	多岐腸	多岐腸目			○					
3	紐形動物	二		紐形動物門		○	○	○		○		
4	軟体動物	腹足	盤足	シマハマツボ	○		○					
5				ウミゴマツボ			○					
6				シマメノウフネガイ			○					
7			新腹足	ムシロガイ	○							
8				アラムシロ	○	○	○	○	○			
9				異旋	クチキレガイ	○						
10			頭楯	マメウラシマガイ	○				○			
11				マツシマコメツブガイ					○			
12				キセワタガイ	○							
13			二枚貝	フネガイ	サルボウガイ		○	○	○			
14					イガイ	ムラサキイガイ				○		
15						ミドリイガイ			○			
16				コウロエンカワヒバリガイ				○	○			
17					ホトトギスガイ	○	○	○	○	○	○	
18				マルスダレガイ	ブンブクヤドリガイ科					○		
19		バカガイ			○		○	○	○	○		
20		シオフキガイ			○		○	○	○	○		
21		チヨノハナガイ			○							
22		サクラガイ								○		
23		ヒメシラトリガイ			○		○		○			
24		シズクガイ			○	○						
25		マテガイ			○	○	○	○	○	○		
26		ウスカラシオツガイ			○	○	○	○	○	○		
27		ホンビノスガイ			○	○	○	○	○	○		
28		カガミガイ	○		○	○	○	○	○			
29		アサリ	○		○	○	○	○	○			
30		ハマグリ						○				
31									○			
33		環形動物	多毛	サンバゴカイ	Eteone sp.						○	
34					オトヒメゴカイ科			○				
35					ハナオカカギゴカイ		○					
36	コケゴカイ					○	○	○	○	○		
37	ヒメゴカイ				○	○	○		○			
38	アシナガゴカイ				○		○					
39	オウギゴカイ				○	○	○	○				
40	ツルヒゲゴカイ						○					
41	チロリ						○			○		
42	Glycera sp.						○	○	○	○		
43	Glycinde sp.				○							
44	ハヤテシロガネゴカイ				○			○		○		
45	ミナミシロガネゴカイ							○				
46	スピオ				ケンサキシピオ					○	○	
47					シノブハネエラスピオ		○			○		
48				イトエラスピオ		○						
49				Dipolydora		○			○			
50				Pseudopolydora sp.		○				○		
51				ヒゲスピオ			○			○		
52				Scolelepis sp.					○			
53	Spio sp.							○	○			
54	Cirriiformia sp.			○		○	○	○	○			
55	イトゴカイ			Capitella sp.					○	○		
56				Mediomastus sp.		○	○	○	○	○		
57	タケフシゴカイ科			○			○	○				
58	オフエリアゴカイ			ツツオオフエリア					○			
59	チマキゴカイ			チマキゴカイ					○			
60	フサゴカイ			フサゴカイ科			○					
61	ケヤリ			Chone sp.	○							
62				ケヤリ科			○					
63	節足動物			軟甲	等脚	ヒメスナホリムシ	○			○		
64						端脚	ニホンドロソコエビ		○	○	○	○
65							Monocorophium sp.					○
66		イソヨコエビ		○								
67		メリタヨコエビ属		○								
68		十脚	タイワンガザミ			○		○				
69			スネナガイソガニ			○						
					26	21	36	25	29	22		

4 調査に関する写真



調査の様子



かわさきの浜の様子



キンセンガニ



スベスベオウギガニ



フタミゾテッポウエビ



ケブカヒメヨコバサミ



ハマグリ



サクラガイ



ムシロガイ

生物調査（干潟以外）のレポート④

実施・主催機関	調査場所・地点名	実施日	調査内容
板橋区	白子川（東埼橋、白藤橋）	7月28日	魚類、底生動物

生物調査の結果

団体名	東京都板橋区	
調査地点名	白子川 (1) 東埼橋 (2) 白藤橋	
位置座標 (可能であれば)	緯度	(1) N35.46.47 (2) N35.47.15
	経度	(1) E139.37.28 (2) E139.37.52
実施年月日	令和4年7月28日（木）	

令和4年度 白子川生物調査の概要

1 調査概要

① 調査地点及び調査実施日

河川名	調査地点名	調査実施日	調査時間	天候	気温 (°C)	水温 (°C)
白子川	①東埼橋上流付近	2022/7/28 (木)	9:00~10:45	晴れ	32.0	25.0
	②白藤橋付近	2022/7/28 (木)	11:45~15:30	晴れ	34.0	32.0

② 調査方法

各調査地点において投網、タモ網（手網）及びカゴ網を用いて、魚類、底生動物を採集した。

採集した個体は現地で種の同定、個体の計測、写真撮影を行い、再放流した。現地での同定が困難な個体については、10%ホルマリンで固定して持ち帰り、実体顕微鏡下で同定した。底生動物については、肉眼でみえる個体を採集対象とした。



投網



カゴ網



タモ網

2 調査結果

① 河川状況

(1) 東埼橋上流付近

東埼橋直下にS型の淵があり、更にその下流に高い落差工がある。増水によりかなり水位が上昇しなければこの落差を魚類が遡上することは困難と考えられる。淵の上流は水際が綱矢板等で護岸され、河床が布型枠等で護床されている。

カゴ網は子安橋の上・下流部で、やや淵状になっている2箇所に設置した。



(2) 白藤橋付近

河床はコンクリート張りであるが、白藤橋の下流約100mの位置に土砂が堆積しており、浅い淵と瀬が形成されている。

カゴ網は白藤橋の下流のやや淵状になっている2箇所に設置した。



② 魚類調査結果

白子川の2地点全体では、ニホンウナギ、オイカワ、アブラハヤ、モツゴ、ドジョウ、アユ、ヌマチチブなど、4目6科14種の魚類が確認された。

出現種のうち、「環境省 RL2020」に該当する種として、絶滅危惧ⅠB類に該当するニホンウナギ、準絶滅危惧に該当するドジョウが確認された。

「東京都 RL2020 区部」に該当する種として、絶滅危惧ⅠB類に該当するニホンウナギ、絶滅危惧Ⅱ類に該当するアブラハヤ、準絶滅危惧に該当するマルタ、ウキゴリ、ヌマチチブ、情報不足に該当するオイカワ、ドジョウ、シマヨシノボリ、旧トウヨシノボリ類が確認された。

外来種については「特定外来生物」に該当する種は確認されなかった。

.....
○「環境省 RL2020」：環境省版レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）2020年
絶滅危惧ⅠB類（EN）：ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

準絶滅危惧（NT）：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

○「東京都 RL2020 区部」：東京都レッドリスト（本土部）2020年版

絶滅危惧ⅠB類（EN）：ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

絶滅危惧Ⅱ類（VU）：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実に考えられるもの

準絶滅危惧（NT）：現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの

情報不足（DD）：環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの

○外来種

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省に指定された種（2017）。

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省に指定された種（2016）

.....

魚類調査結果

No.	目名	科名	種名	白子川		合計	環境省 RL 2020	東京都 RL 2020 区部	外来種	
				① 東埼玉橋 上流付近	② 白藤橋 付近					
1	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ		4	4	EN	EN		
2	コイ目	コイ科	オイカワ		16	16		DD		
3			アブラハヤ	3	2	5		VU		
4			マルタ		3	3		NT		
5			モツゴ		1	1				
6			ドジョウ科	ドジョウ	2		2	NT	DD	
7		サケ目	アユ科	アユ		1	1			
8	スズキ目	ボラ科	ボラ		3	3				
9		ハゼ科	ウキゴリ		3	3		NT		
10			マハゼ		2	2				
11			ヌマチチブ		47	47		NT		
12			シマヨシノボリ	8		8		DD		
13			旧トウヨシノボリ類	5		5		DD		
14			スミウキゴリ	13		13				
計			4目	6科	14種	種類数計	5	10	14	2
				個体数計	31	82	113			

・種名及び配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 2021」に従った。

地点別魚類捕獲状況

地点	No.	種名	体長(mm)		個体数	備考
			最大	最小		
白子川	①東埼玉橋上流付近	1	アブラハヤ	33	16	3
		2	ドジョウ	62	37	2
		3	シマヨシノボリ	64	34	8
		4	旧トウヨシノボリ類	55	31	5
		5	スミウキゴリ	95	47	13
	②白藤橋付近	1	ニホンウナギ	520	412	4
		2	オイカワ	29	23	16
		3	アブラハヤ	31	21	2
		4	マルタ	61	46	3
		5	モツゴ	26	-	1
	6	アユ	68	-	1	
	7	ボラ	65	53	3	
	8	ウキゴリ	52	50	3	
	9	マハゼ	82	84	2	
	10	ヌマチチブ	72	23	47	

個体写真



オイカワ



モツゴ



アブラハヤ



マルタ



ドジョウ



アユ



ボラ



ウキゴリ



ヌマチチブ

② 底生生物調査

白子川全体では、チリメンカワニナ、シマイシビル、カワリヌマエビ属、アメンボなど、13目25科29種の底生動物が確認された。

出現種に、「環境省 RL2020」に該当している種はなかったが、「東京都 RL2020 本土部」の留意種に該当する種として、モクズガニが確認された。

外来種については「特定外来生物」に該当する種は確認されなかったが、「緊急対策外来種」に該当するアメリカザリガニ、「その他の総合対策外来種」に該当するフロリダマミズヨコエビが確認された。

モクズガニは、生息環境として「東京湾沿岸に注ぐ大型河川の下流域から中流域に生息する。水から離れることはなく、土手などに穴居するほか、石の下に潜む。」とされ、また、生存に対する脅威や保全上の留意点として、「河口域の水質汚染の影響を受ける他、特定外来生物であるチュウゴクモクズガニ(シャンハイガニ)との競合が懸念される。」とされている。(「レッドデータブック東京 2013～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版～」より抜粋)

アメリカザリガニは 1920 年代頃、米国から日本に食用ウシガエル養殖用の餌として持ち込まれ、湿地や水田など日本各地に広く分布する。雑食性で、さまざまな環境の動植物を摂食することから多くの生物に影響を及ぼす。

フロリダマミズヨコエビは北米原産で、国内では 1989 年に利根川支流にて初めて確認され、侵入後 20 年程度で日本各地に分布を拡大した。水槽で栽培されていた水草とともに野外に捨てられ、野性化した可能性が指摘されており、ペットショップで販売されているホテイアオイからも検出されている。本種の侵入地で多種のヨコエビが見られなくなる地域が報告されている。

○「環境省 RL2020」:環境省版レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)2020 年

○「東京都 RL2020 区部」:東京都レッドリスト(本土部)2020 年版)

○外来種

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省. に指定された種(2017)。

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省. に指定された種(2016)

緊急:緊急対策外来種。対策の緊急性が高く、積極的に防除を行う必要がある種

その他:総合対策外来種のうち、緊急対策外来種、重点対策外来種以外の種

未評価:未評価であるが国外外来種



チリメンカワニナ



モクズガニ